

月例研究会（2006年3月15日）

地方自治体における  
先進的高齢者福祉の達成と挫折  
—秋田県鷹巣町の事例—

山本 補將

研究会における報告は、おおよそ以下のよう  
な内容であった。

調査の動機は、介護保険制度の認める地域格  
差の実態を明らかにし、他の地域に普遍化でき  
ることを発見しようとしたことである。各地の  
調査から高齢者福祉の先進地区として知られ、  
特に優れた介護保険事業の実施されていた秋田  
県鷹巣町を詳細に調べることで上の課題に接近  
しようとした。そこでこの研究の一部として、  
鷹巣町の先進的高齢者福祉がいかにつくられたか  
を明らかにすることをこの日の報告の課題とし  
た。

鷹巣町の高齢者福祉を建設するうえでリーダ  
ーシップを発揮した岩川町長と鷹巣町の福祉政  
策の提案機構としてのワーキング・グループ  
(WG)を主要なアクターとして取り上げ、報  
告の中心においた。

岩川氏は1991年、7選を目指した現職町長に  
挑み、8013票対7694票の僅差で勝利した。政策  
は何も掲げず、多選反対の流れにうまく乗れた  
のが勝因の一つであろう。当選後岩川氏は、鷹  
巣町内8000世帯を訪問し住民の要望を聞いて回  
り、最優先課題として「老後の不安を解消する」  
を町政の最優先においた。時代は、地域福祉を  
必要とし、国の福祉行政もそうした方向に向か  
っていた。

岩川氏は、福祉専門家に学び、1992年にデン  
マーク視察を経て、デンマーク・モデルの高齢

者福祉の実現を目指した。デンマーク福祉の専  
門家に学び、住民参加のワーキング・グループ  
方式を取り入れ、住民の要求を町政に生かそう  
とした。

WGに参加した住民は、鷹巣の実態を調べ、  
提案として具体化した。提案は「すぐにできる  
こと」「少し工夫すればできること」「予算化し  
なければできないこと」に分ける。

この組織は、岩川町政への政策の提案機関で  
あったが、全くのボランティア団体であった。  
組織の特質として、自由参加、出入り自由、無  
報酬、参加資格（鷹巣の住民）を挙げる事がで  
きる。始まりは59人。最大時約200人（鷹巣成  
人住民の1%を超える）だった。

参加者の属性は、参加者の出入りがあるので  
特定できないが、初期には比較的高齢者多く、  
退職公務員、教員、民生委員などが目立つが、  
農業従事者は少ない。社協職員も若干名いた。  
男女比に大きな差はない。比較的時間に余裕の  
ある高齢者、女性が多くなる傾向にある。

WGの問題点は、WGが組織として政治にか  
かわらなかったことだ。自分たちの提案が何度  
も町議会に否決されているにもかかわらず。た  
だし、個々には町議選に参加した。民生委員の  
グループは、WGの女性民生委員を町議に当選  
させた。しかし、このことが、WGの非政治的  
性格とともにのちに鷹巣の福祉をつぶす遠因と  
なった。

WGが長続きした理由は、自らの提案が実現  
し、形になっていくことに対する達成感にやり  
がいを見出していた点にあると言えよう。

岩川町長敗北後もWGは組織としては残る  
が、その性格は全く異なる。参加者も減少した。  
現在のWGは、岩川町政が残した福祉遺産を守  
ることに課題をおいている。

（やまもと・すけまさ 専修大学北海道短大教授）